

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.151

子どものオンラインゲームでの高額請求

未成年者が大人の承諾を得ずに行った高額な契約は、民法上取り消しができるとされています。しかしクレジットカードで決済した場合には、契約の解除は容易ではありません。それはクレジットカードにはカード名義人の管理義務があり、カード名義人である大人の責任が問われるからです。オンラインゲーム等での課金後は、必ずサイトからログアウトしましょう。購入後ログアウトしないと、パスワードなどを入力しなくてもオンラインゲーム上のアイテム購入などで課金できてしまいます。

また、子どもがクレジットカードを勝手に持ち出したり、大人が設定したパスワードを予測したりして課金してしまうという事例もあります。クレジットカードの保管場所やID・パスワードの管理には細心の注意を払い、利用明細は毎月確認しましょう。

いまやパソコン・スマートフォンだけでなく、ゲーム機や音楽プレーヤーなどでもインターネットを利用できます。ご家庭で子どもの意見を取り入れながら、大人と子どもの双方が納得できるインターネットの利用のルールをつくりましょう。



おもてなしコラム 24

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、またみんなが郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



西脇市産のイチゴを食べて、春を満喫しませんか。

西脇イチゴがもたらすにぎわい

西脇市ではイチゴの特産化と観光客の増加を目的に、平成26年度から「スイーツファクトリー支援事業」を実施し、イチゴ農家の育成に取り組んでいます。イチゴは小さな面積でも収穫量が多く、商品価値も高いことから安定した収益が見込めます。また、市内農産物直売所への出荷に加え観光農園を運営することで、より高い収益を上げることもつながります。最近では農家自らが農作物を加工し販売する「6次産業化」の構想もあり、年間を通じて収益が得られるように取り組んでいます。

一方、市観光協会と連携したイチゴマップの作成や旅行社へのイチゴ狩りバスツアーの企画も行っています。バスツアーでは市内飲食店や北はりま旬菜館、道の駅に立ち寄ります。平成29年度には市内飲食店への観光誘客数は前年度と比較して2倍になり、地域経済への波及効果が出てきています。

市では、今後イチゴ栽培面積を2倍に広げることを目標に、新たに研修生を募集して育成していきます。さらに、市内産イチゴを使ったお菓子やスイーツを提供する飲食店を増やし、「西脇イチゴ」の認知度とブランド力を向上させることで、にぎわいあふれるまちづくりを目指します。



▲レントン市のデニス・ロー市長(右上)を表敬訪問(昨年8月)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

姉妹都市・レントン市で異文化交流を体験

—西脇市中学生親善使節団員を募集します—

西脇市・市教育委員会・市国際親善交流協会では、姉妹都市アメリカ合衆国ワシントン州レントン市へ派遣する「中学生親善使節団員」を募集しています。文化や生活様式、考え方の違いなどを理解し、たくさんの方の視界を広げるチャンスです。

昭和44年に西脇市とレントン市が姉妹都市提携を結んで今年で49年目です。この間レントン市とは、中学生親善使節団や市民使節団を相互に派遣するなど、交流を深めてきました。

中学生親善使節団の派遣は昭和62年に始まり、今年も市内在住の中学3年生を対象に募集を行います。

これまで参加した先輩たちからは、中学3年生の皆さんに「このチャンスを逃すのはもったいない。良い体験ができるので、絶対にレントンに行ってほしい」との声が届いています。

この機会に異文化交流を体験し、自分を大きく成長させてみませんか。

◆派遣期間
8月16日(木)～25日(土)
26日(日)帰国予定

◆募集人数 14名
◆費用 個人負担8万円。その他の公的費用は、市が負担します。
◆応募資格 市内在住の中学3年生(市内在住で市外学校に通学している生徒も応募できます)

◆応募方法 所定の申込書と作文(目的や希望理由を指定原稿用紙両面1枚にまとめたもの)を学校教育課へ提出してください(郵送可)。申込書と原稿用紙は、市ホームページからダウンロードできます。

◆応募締切 4月20日(金)
◆応募・問合せ 学校教育課(市役所内線536)

なお、応募された作文等は返却しませんので、あらかじめご了承ください。



楽曲「ヘソノオノウタ」は5月ごろからカラオケで全国配信

このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をもっと創っていきましょう。

市民の皆さんが西脇市の魅力を全国・世界へ発信を全国・世界へ発信

市内で「ヘソノオノウタ」のメロディを耳にしたたり、ビデオ映像を目にしたたりする機会が増えてきました。



西脇市長 片山象二

市長からの手紙

西脇を元気に!!

51

桜花爛漫、新しいランドセルがまぶしい光を放つ季節がやってきました。職場や学校、地域などさまざまな場所で新しい出会いやつながりを実感されていることでしょうか。さて西脇市では、今年も14名の人権教育推進委員(以下、推進委員)と各町の115名の人権教育推進員(以下、推進員)が人権教育推進リーダーとなり、さまざまな活動を行います。推進委員は各種人権研修会に参加し、人権教育啓発に取り組みするスキルアップを図ります。そして、それぞれが学んだことを自分たちが主体的に取り組みする学習会に持ち寄り、多様な人権課題について研究し、成果を発表します。

その活動のひとつとして、昨年度末に推進委員がオリジナルの紙芝居「サーカスがやってきたよ!」を制作しました。紙芝居には推進委員の方々が自身これまでの人権学習や生活の中で感じた、悩んだり、考えたりしてきたことが絵と語りに込められています。作品では「人と人との温かいつながり」、「体験からの気づき」、「周りの人たちの生き方からの学び」、「気づきと学びから自分のこととして関わる行動」など、互いの存在を認め合い大切にされる社会であるために考えたいと思うことが表現されています。紙芝居の内容はこの広報と同時に配布する人権教育啓発冊子「ゆきちゃんからのメッセージ」の中で紹介していますので、ご覧ください。

また、今年も推進委員・推進員の方々が中心となって市内各地区の町別学習会や研修会、講演会を実施します。もしかすると、その中で皆さんにじんけん紙芝居を観ていただく機会があるかもしれません。ぜひご参加いただき、互いが尊重され、大切にされる地域がまちづくりについて一緒に考えていきましょう。

そして、これからも一人ひとりの人権が大切にされ、夢や希望を語る事ができる西脇市であることを願っています。